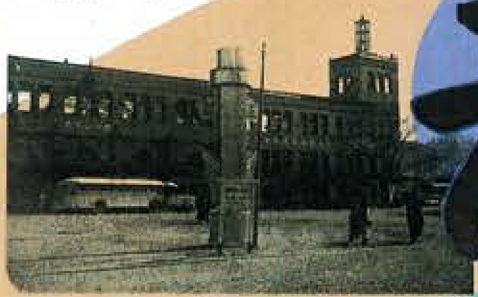
伊勢市立大湊小学校
5年A組 湯前 龍真
令和元年9月25日発行
第5号

# 鉄道今昔物語
Tetsudo Konjaku Monogatari

## 駅からすべてが始まった。

三重県伊勢市。僕の生まれた街には、現在、近鉄山田線・鳥羽線と、JR東海参宮線が走っています。かつて昭和前期には、三重交通神都線が、山田駅前（現伊勢市駅）から外宮前を経て内宮前、途中で分岐して二見へ線路が延び、伊勢神宮への驚異的な数の参宮客や海水浴客を運びました。その後、伊勢湾台風の被害、道路交通網整備、急激に発展するモータリゼーションとともに、旅客は減少して昭和36年（1961）廃線となった。

今日は、元近鉄運転士の鈴木敏雄さん(67)に「近鉄80年のあゆみ」という写真集と一緒に、かつての神都線跡を歩いて、案内していただきました。



昭和30年ごろの宇治山田駅

→近鉄宇治山田駅。

「ありゃぁ、令和時代になって、駅舎改修工事かいなぁ。ほとんど昔と変わってないんやけどな。そや、駅舎の上に突出した所は、"火の見やぐら"で伊勢市消防署を兼ねてたんやぞ。高架駅なんだけど、1階西側にしか出入口がないのは、東側に神都線宇治山田駅があったからなんやさ。」

今にも消防車が出動しそうな迫力がありますね。

## くらしは郊外から街へ

二十世紀は、人口増加、高度経済成長により、中心市街地から郊外へ拡大する「二十世紀都市」が作られてきた。

しかし、現在では人口減少、少子高齢化社会、自然災害、そして地方分権などにより地方社会状況が一層厳しくなってきている今、伊勢市では、伊勢市駅ー宇治山田駅間の中心市街地に、主要公共施設を周辺エリアに、大規模小売店招致、大規模病院を移転、そして中高層共同住宅を建設し、市内周辺のバス路線網の整備により、新たな「二十一世紀都市」というコンパクトな都市作りを進めており、鉄道駅からのアクセスも、より利便性を高め身近になっている。

【伊勢市地図（現在）】

↑神都線警察署前駅

「今は、この銀行も合併をくり返して名前変わっちゃってい るね。小さいけどこの駅は、近鉄宇治山田駅との乗り換え駅で、乗降客数が多かったね。」

昭和30年ごろの警察署前駅

昭和29年（1954年）春、青森県が仕立てた「臨時夜行列車」が上野駅に着いた。以後、昭和50年まで、北海道や東北、九州方面から首都圏、関西・中京地方に向けて、中学卒業生を乗せた「集団就職列車」が運行された。最盛期には年間8万人近い「金の卵」を運び、高度経済成長に湧く日本を支えた。

「そうやねぇ、この時期に"出稼ぎ"っちゅう多くの働き手が都市部へ向かって、都市と地方の経済格差が広がる中、都市への人口と資本の集中がどんどん進んで行ったんやよ。就職、出稼ぎ、修学旅行、新婚旅行、みんなが駅から列車に揺られて旅立ったもんやな。」

昭和30年代、行楽地は家族連れによるにぎわいを見せ、帰りはみんなクタクタになった。

「あの頃は、海水浴、行楽地や遊園地、そして万博なんかで人がいっぱいにあふれていたなぁ。この伊勢市も、観光の街だから、人、人、人で、神宮参拝客で神都線も満員で走っていたんやに。」

かつての駅というものは、旅客や荷物が集まる中継所で、蒸気機関車が主流だった時代では、音・におい・振動、活気あふれる所だった。新路線に初めて鉄道に乗る客が乗車方法を知らずに、車両のドア前のホームで靴を脱いで乗ったなどというエピソードも残っている。

「はだしで乗車する客がいたという話は、聞いた事あるなぁ。」

人々の生活・くらしは、駅から始まったというのが、しみじみと伝わってきた。

←神都線松尾駅。

「ずい分歩いたなぁ。この写真、よ〜く見てよ。何か気付かない？」

内宮前行きの電車が駅に到着する所です。

「そう、到着するということは、複線で右側通行しているんだよ。神都線は、外宮前駅で乗降する旅客が線路を横断することなく神宮参拝ができる仕組みになっているため、全国では珍しい、鉄道の右側運行をしていた路線なんさな。あ、写真っておもしろいでしょ。いろんな世界が見えて来るんだなぁ。運転士をずっとやってきたもんだからさ、電車の動きと1分1分を刻む時間の大切さに敏感になってんのかも知れへんねえ。」

松尾駅は、毎年初午には、松尾観音に厄おとしの祈願をする人たちで混雑したようです。写真は、平日の穏やかな昭和30年の風景で、今にも警笛が聞こえそう。

↑現在、この路線は三重交通バスに変わり、1日上下合わせて14本程度のローカルバスが運行しています。駅周辺の田畑は、コンクリートの壁で固められていました。

### 編集後記

今と昔。今日は、タイムスリップした、かつての神都線の伊勢市内を走る当時の景色や鉄道と人々のくらしの活気ある情景を、写真と比較して、近鉄元運転士の鈴木さんに現地にて解説いただきありがとうございました。深くお礼申し上げます。鈴木さんの「運転士って、たくさんの朝焼けを見てきたんだよ。」という未来へつなぐ言葉には、とても感動しました。忘れ去られる昭和時代を伝えていきたいと思います。


【参考文献】
・「伊勢市の昭和」樹林社 二〇一九年九月発行
・「近鉄80年のあゆみ」近畿日本鉄道株式会社 一九九〇年十月発行
を参考にした。